

介護

の現場から

その39

私は看護従事員として、介護従事員と連携しながら、76人の利用者とショートステイ16人の利用者の健康維持、疾病予防、異常の早期発見、治療に努めています。

池幸園の看護従事員は全員で5人ですが、普段は3人体制で利用者が健康で安心して生活できるように援助しています。平成12年から月2回1-3回夜勤務をし、利用者の緊急事態に対応できる



よつに心がけています。

利用者の年齢も65歳から最高齢で100歳となり幅広い年齢層にまたがり、その中で90歳以上の方が25%を占めており、現在の平均年齢は85.1歳です。

特別養護老人ホームの利用者は「生活の場」とは言われてはいますが、わが池幸園は高齢化に伴い、体調を崩して寝たきりになる方も少なくあり

住みたくなる園づくり

池幸園看護課長 工藤 明美

ません。しかし、池幸園は嘱託医が隣の池田内科医院の医師で、一幸会の理事長でもあることから夜間に急変してもすぐに来園し、緊急通院する方施設の静養室で対応する方に分かれま。毎週水曜日の午後の回診では、利用者全員を診察します。嘱託医の先生が利用者に声を掛けると待っていたかのように「先生や」と先生の手を握る場面が多々見られ、ほほえましい光景です。

最近では、重度の利用者

日々の生活を支える

の方が多くなり、以前と比べると傾向にあり、利用者の比ベ医療行為も増えてい30%の方が経管栄養で食ます。点滴、注射、採血、血糖検査、インスリン注射、酸素吸入、吸引、褥瘡処置、口腔清拭、外用剤処置、尿カテーテル留置、胆汁チューブ挿入、気管切開、在宅酸素、通院介助などがあります。

昨年からは食事摂取の困難な方を対象に、個人に合った摂取方法と誤嚥防止のため、嚥下外来の医師から往診していただくことが増えています。嚥下内視鏡検査を施行。介護従事員、看護従事員、栄養士、時には家族の方にも一緒に参加し嚥下に対して理解をいた

管栄養の方が年々増加しています。胃力メ



水曜の午後には嘱託医の回診があり、利用者の健康状態をチェックします。送迎車で外出する時もあります。利用者が家族とともに過ごし、うれしそうに帰園される姿を拝見し、喜びを共にする事でお互いの絆をさらに強めていることを実感しました。

これからも、池幸園の理念を念頭におき、利用者にとって快適なサービスを提供するために、一人ひとりが歩んでこられた人生を大切に、介護従事員と協力しながら、日々の生活を支えていこうと思います。池幸園は最後の「生活の場」であり、家族の方が「ここを選んで良かった」「ここで生活が送れてよかった」と思っていたら嬉しいサービスを提供するため、そして、自分が住みたくなる池幸園づくりを目指し、精進していこうと思

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載予定。